

## 道徳科学研究所 道徳教育研究会 報告

道徳科学研究所

道徳教育研究推進プロジェクト

道徳科学研究所（道科研）では、令和4（2022）年6月8日に、道徳教育研究推進プロジェクトが企画した「道徳教育研究会」を開催しました。テーマは、「モラロジーにおける教育者」でした。

まずプロジェクト・リーダーであり、企画提案者である江島顕一（主任研究員）から、モラロジーにおける教育者像は、①モラロジー②廣池千九郎③門人の三者から導き出されるとした上で、モラロジーにおける「知徳一体」に基づく教育者像として、「知徳の媒介者としての教育者」（①）を提示しました。

その提案を踏まえ、宮下和大（副所長、主任研究員）は、門人の宗武志を挙げ、モラロジーにおける教育者とは「人を育てる人を育てる人」（③）と述べました。次に橋本富太郎（主任研究員）は、創立者廣池千九郎の教育思想の形成を踏まえ、モラロジーにおける教育者とは「人心開発救済者」（②）であると述べました。最後に川原容一（学校教育センター長）は、学校教育センターの目指す教師像からモラロジーにおける教育者を「喜ばれる教師」と論じました。

本研究会は、道科研の所員をはじめ、財団の職員や全国の維持員の方も対面とオンラインのハイブリッドで数多く参加し、その後の質疑応答も活発に行われました。

公益財団法人となり、令和の時代を迎えた今、モラロジーの教育・研究活動に携わる教育者には何が求められるのか、多角的に考える研究会となりました。